

つくば常民大学 5 月(第 44 回)

講師：山中光江氏（間宮林蔵顕彰会副会長、元・伊奈町立図書館副館長）

題目：「わが郷土の偉人・間宮林蔵」

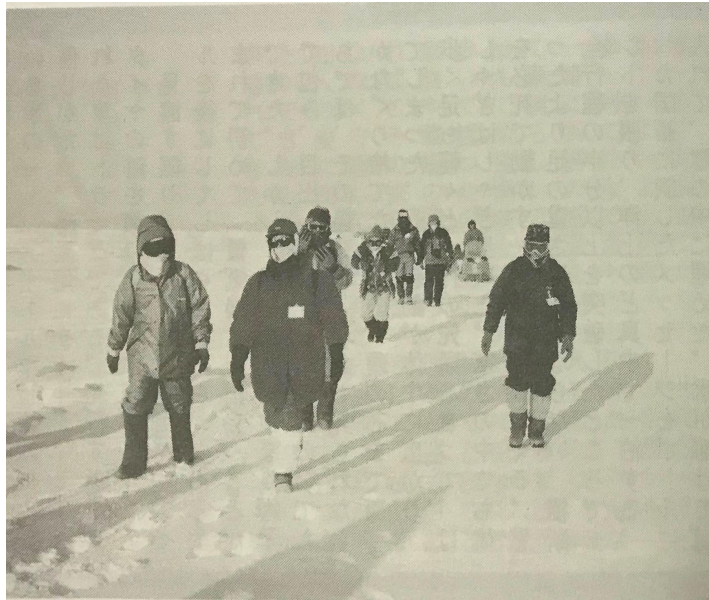
日時：2025 年 5 月 15 日（木）午後 1 時～3 時半

場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料代

間宮海峡の発見者、間宮林蔵（1780～1844）は、茨城県つくばみらい市（旧伊奈町）出身の探検家。後にシーボルトの作成した日本地図で「マミアノセト（間宮海峡）」としてヨーロッパに紹介されました。林蔵が村上貞助に口述筆記させた『東韃地方紀行』は、海峡を渡ってアムール川下流域を調査した記録です。林蔵は伊能忠敬に測量を学びましたが、『日本沿海輿地全図』の蝦夷以北は間宮林蔵の測量図です。

私は旧伊奈町谷井田生まれ、当地の旧家生まれの母から間宮林蔵の話を通じて育ちました。成人後は、凍った厳寒の間宮海峡を二日ばかりで徒歩で横断し、その後、縁あって間宮林蔵顕彰会の役員を歴任し、林蔵とアイヌの女性との子孫を探し出し、林蔵を描く劇団「海峡」を立ち上げるなど、間宮林蔵は私の人生にとってかけがいのない人物となりました。



厳寒の間宮海峡横断（1996 年）

ロシアのプイル村からカラフトのナニオーまで 24 キロを歩く
山中光江氏（中央）